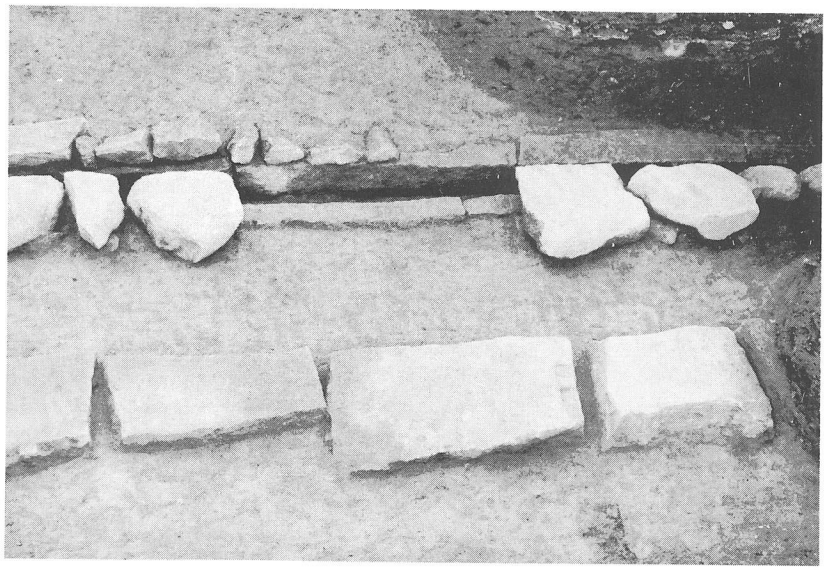
図版３

１．上層３区
　　砂利敷

２．上層６区
　　豊島石くりぬき溝



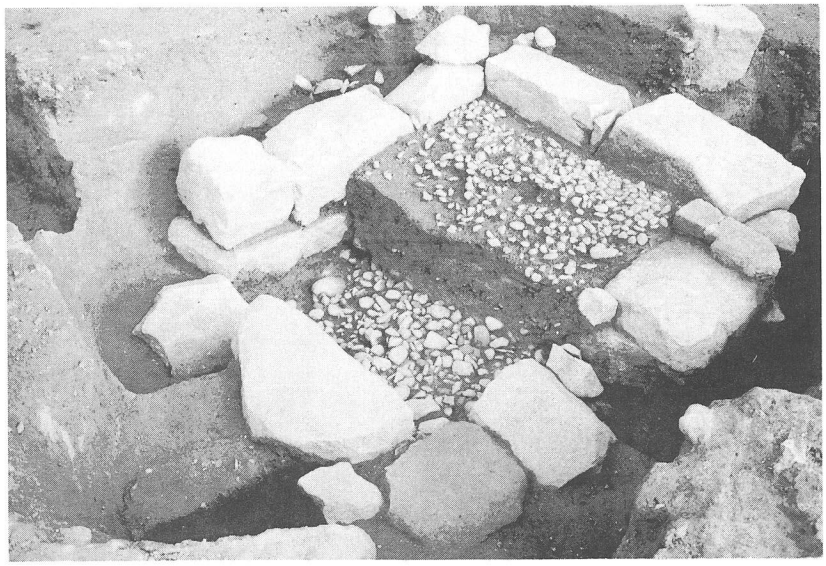
３．上層７区
　　多門櫓列石と石組溝

図版４

１．上層７区
表書院中庭部

２．上層７区
絵図に先行する泉水
（SX77）

３．上層７区
泉水（SX51）



１．上層７区
　　枡形石組（SX186）

２．上層７区
　円礫充填の土壙（SX99）
　　と円礫敷溝１

３．上層８区
　円礫敷溝２と
　　先行の礎石列９

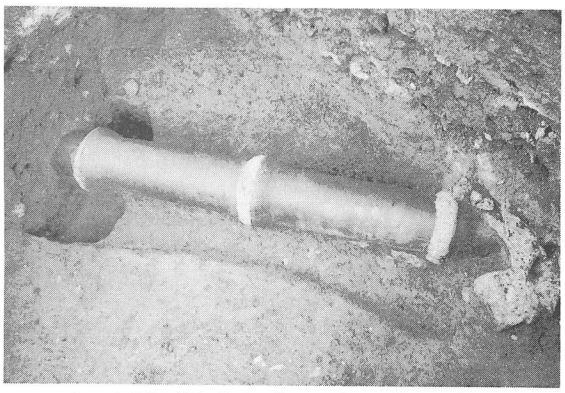
図版６

１．上層８区
穴蔵２

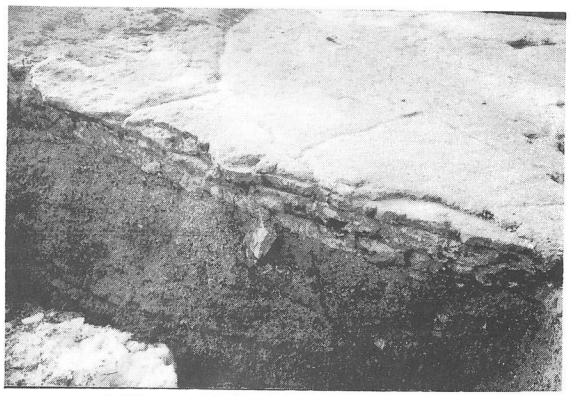
２．上層９区
井戸２と水道石駒１

３．上層９区
小納戸櫓部

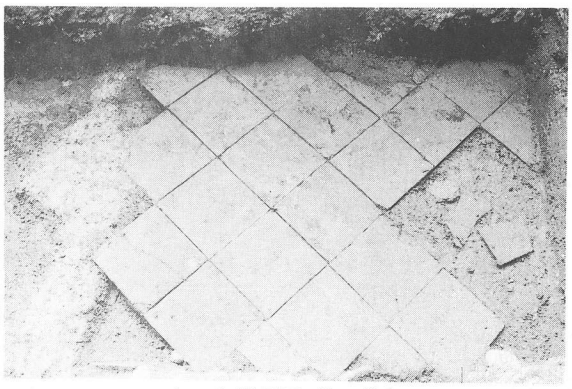
１．上層７区 新段階の泉水（SX51）細部



２．上層７区 泉水（SX51）の排水土管１



３．上層７区 泉水（SX51）底張り重層状況

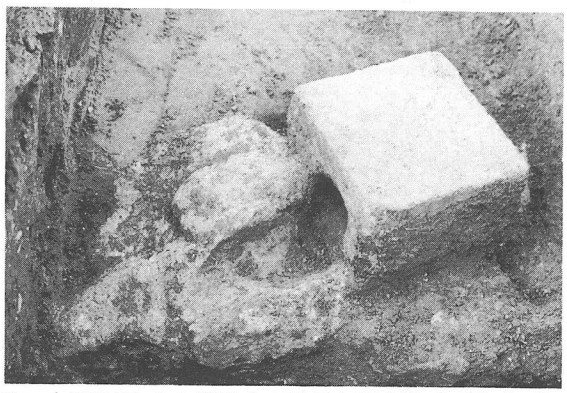


４．上層７区 敷瓦敷２

５．上層８区 小用便所？下部（SX40）

６．上層８区 水琴窟様の伏甕（SX30）

７．上層８区 穴蔵２の木枠型痕

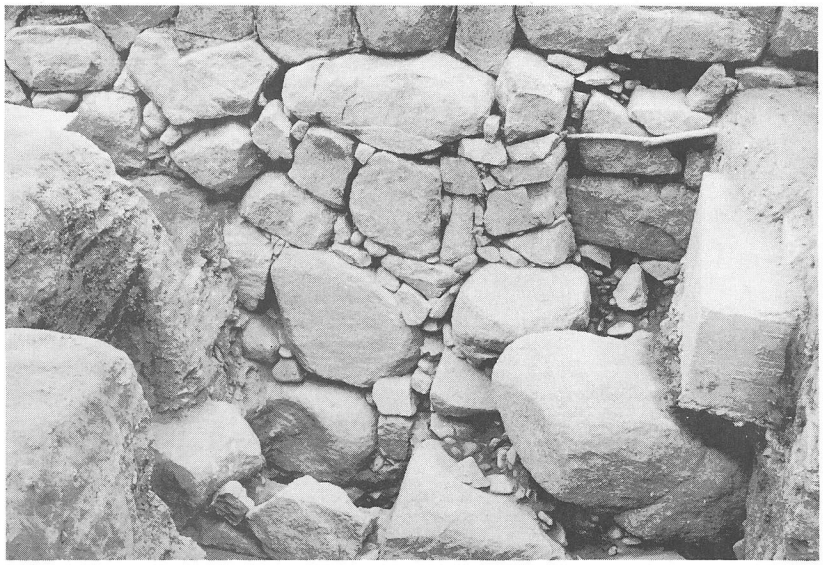


８．上層９区 上水道地中の駒２と固定漆喰（管痕跡）

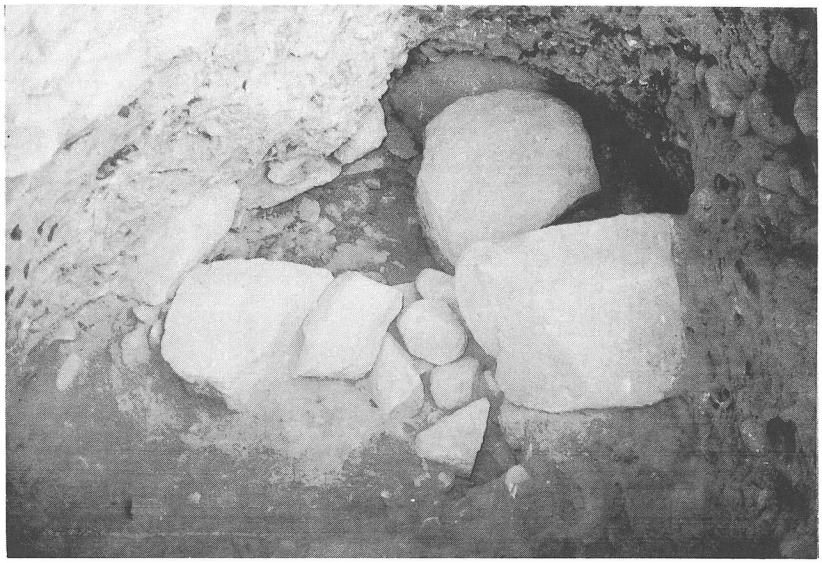
図版８

１．下層１区
段石垣延長部の列石８
（第Ⅱ期）

２．下層１区
北側の段石垣２



３．下層２区
大納戸櫓櫓台の北東部
（第Ⅲ期・Ⅳ期）



１．下層２区
大納戸櫓櫓台内に埋没の
石塁内側石垣４（第Ⅲ期）

２．下層２区
大納戸櫓東石塁の暗渠口
（第Ⅳａ期）

３．下層３区
敷石４(第Ⅳｂ期)

図版10

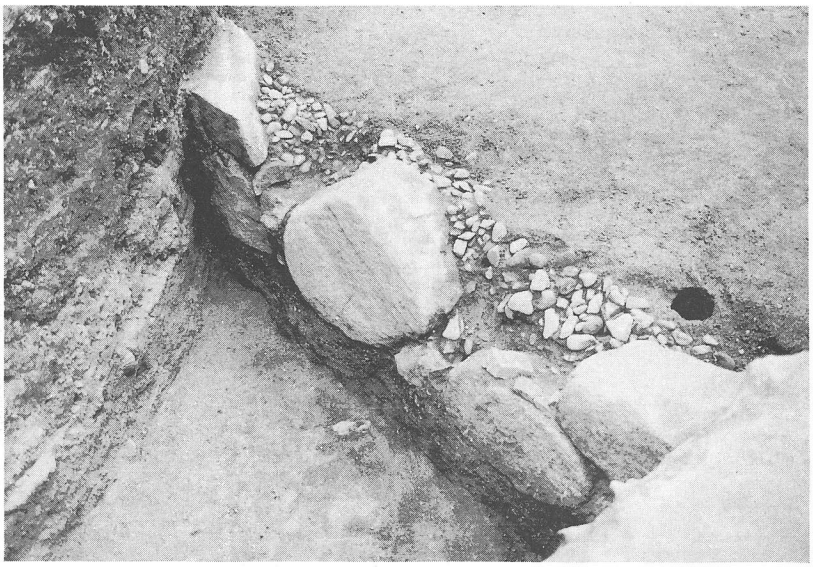
1．下層３区
石墨内側石垣２（第Ⅳｂ期）
と内側石垣３（第Ⅲ期）

2．下層３区
埋没高石垣１（第Ⅱ期）

3．下層３区
石墨内側石垣５（第Ⅱ期）

1．下層３区
石塁内側石垣５の内折部
（第Ⅱ期）

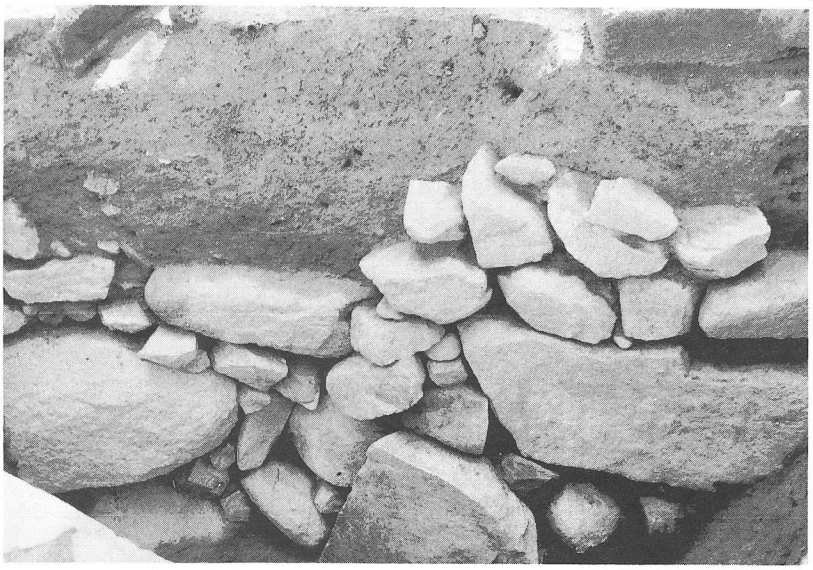
2．下層３区
郭内の礎石群 13
（第Ⅱ～Ⅲ期）



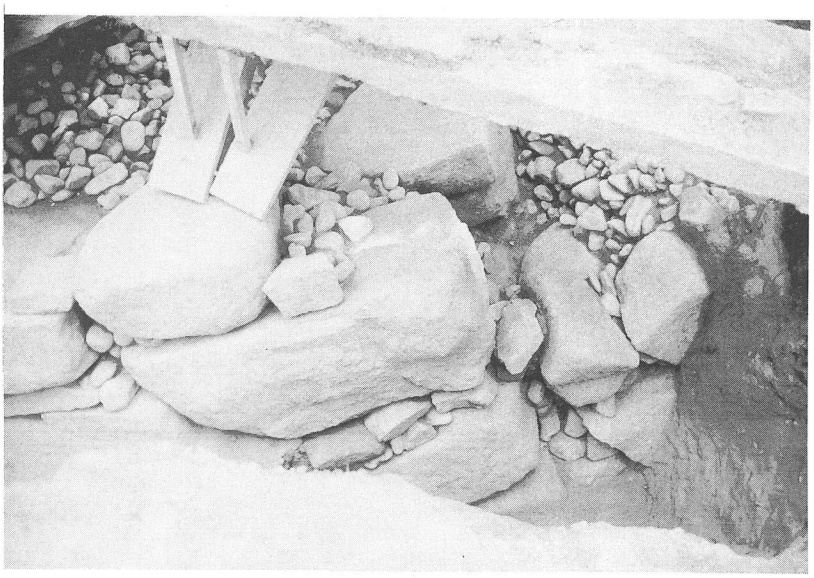
3．下層４区
郭内の段石垣３
（第Ⅱ期）

図版12

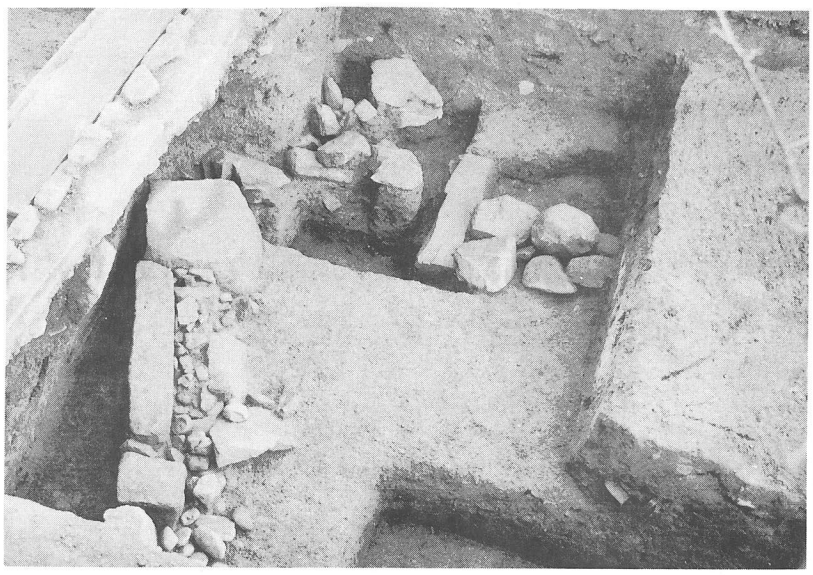
1．下層4区
礫石列15と瓦組
（第Ⅱ～Ⅲ期）



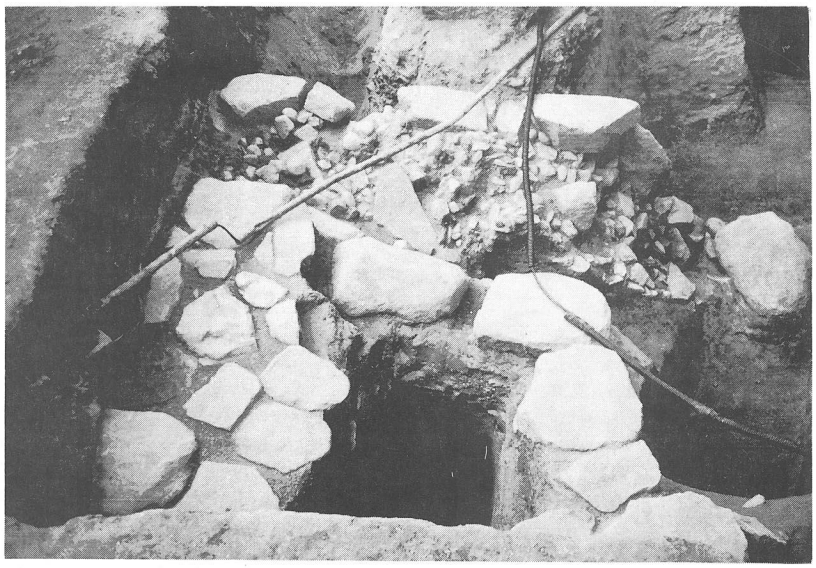
2．下層5区
埋没高石垣2（第Ⅲ期）



3．下層5区
埋没高石垣1の角（第Ⅱ期）と付加の埋没高石垣2（第Ⅲ期）



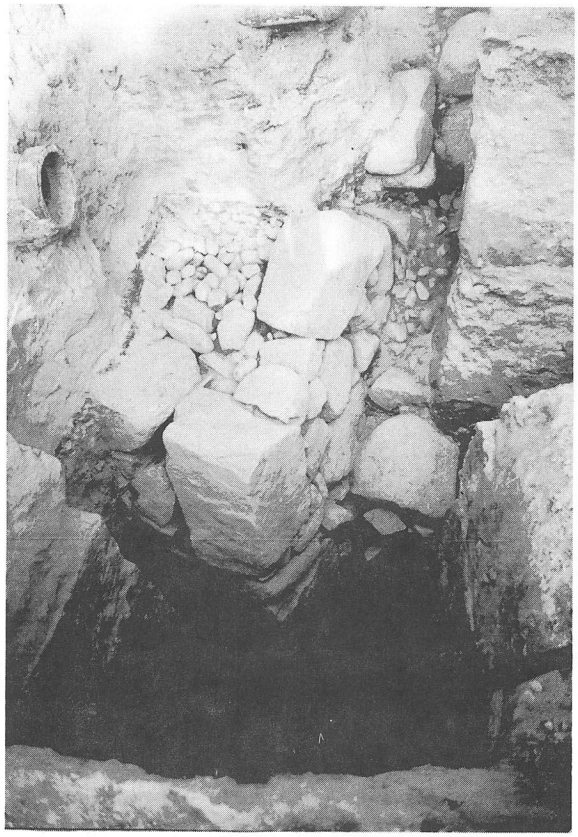
1．下層５区
石塁内側石組６
（第Ⅱ～Ⅲ期）



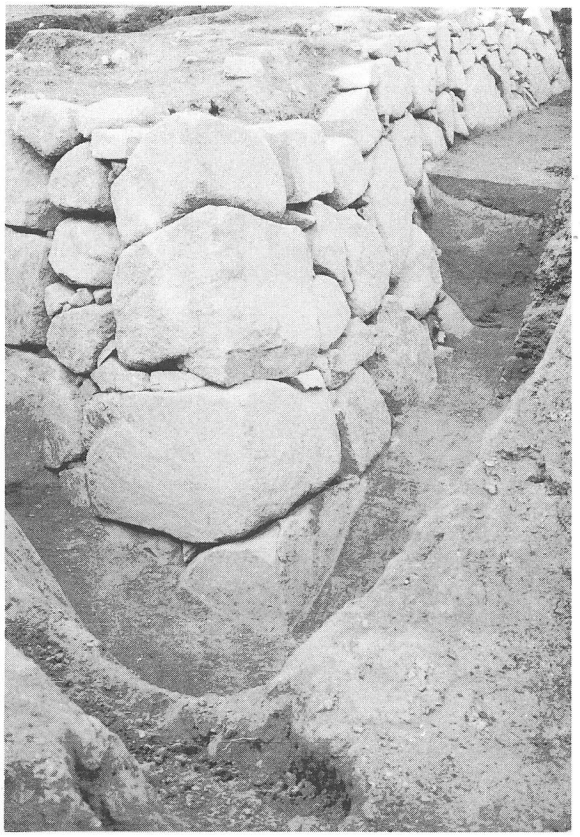
2．下層６区
城門部石垣の南背後の
敷石５ａ（第Ⅳｂ期）

3．下層６区
城門部東背後の敷石５ｂ
（第Ⅳｂ期）

図版14

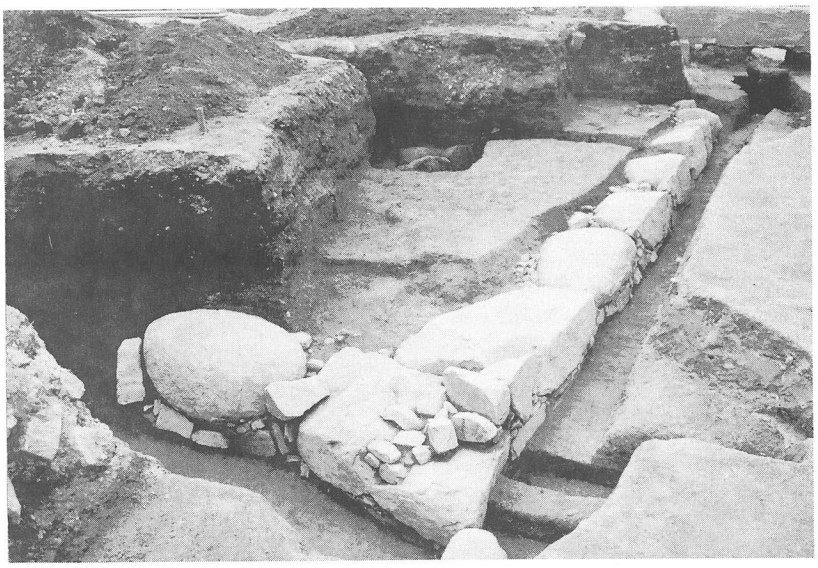


1．下層6区 城門部北東角脇の石垣3（第Ⅱ期）

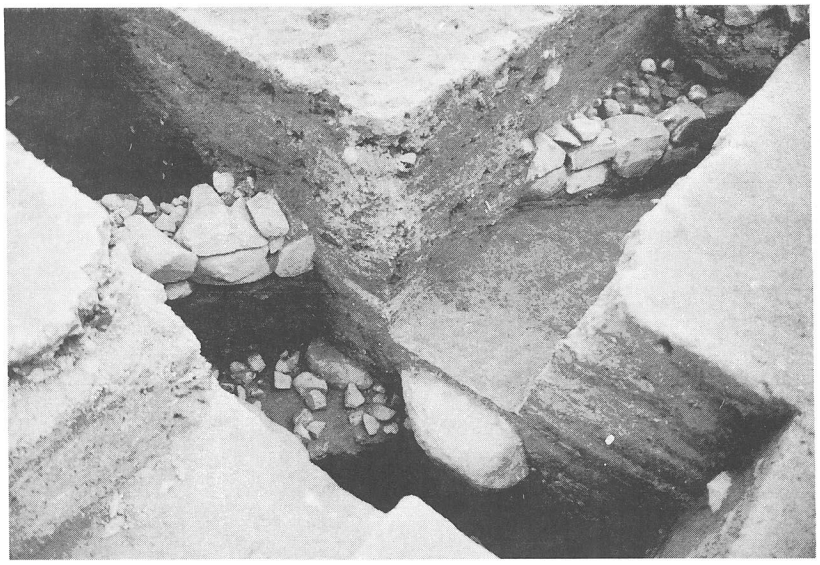


2．下層6区 埋没高石垣1の鋭角部（第Ⅱ期）

3．下層6区 城門部西側（第Ⅱ～Ⅳ期）



1．最下層の土墨内側石組1
（第Ⅰ期新）

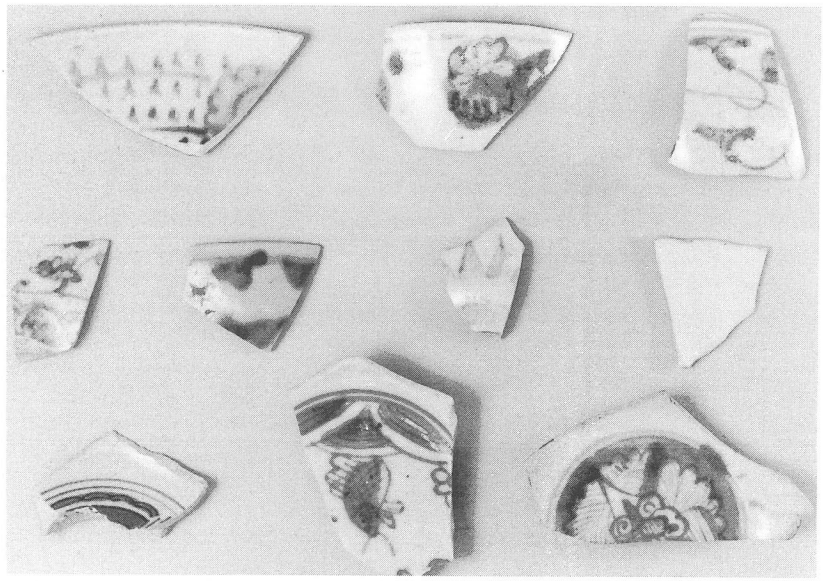


2．最下層の土墨内側石組2
（第Ⅰ期古）

3．最下層の段石組6
（第Ⅰ期）

図版 16

1．下層・最下層期の備前焼



2．下層期の中国産磁器

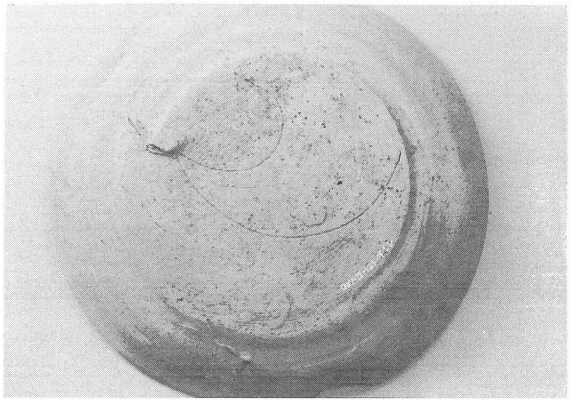
3．下層期の国産施釉陶器

1．土師質小皿

2．土師質大皿

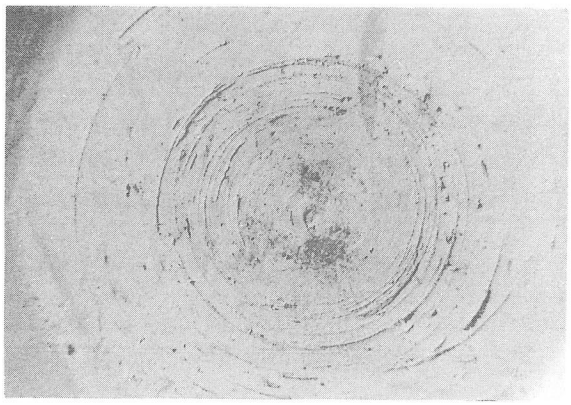
3．土師質皿底部①（ヘラ切り痕）

4．土師質皿底部②（板目痕）

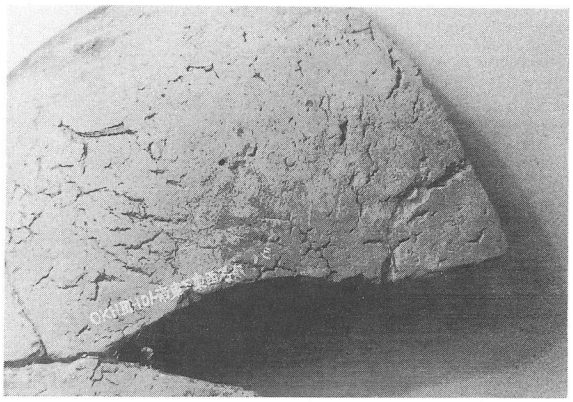


5．土師質皿底部③（糸切り痕）

6．土師質皿底部④（板目痕）



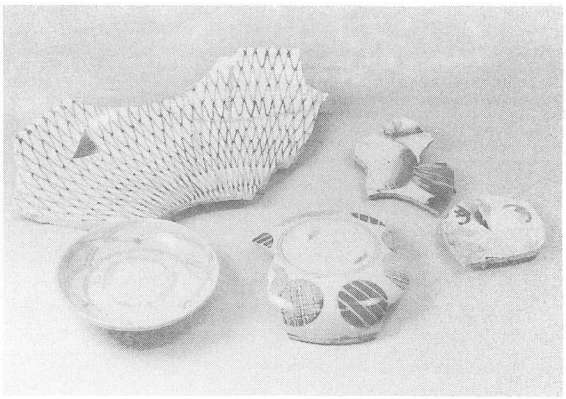
7．土師質皿底部⑤（ヘラケズリ痕）



8．土師質皿底部⑥（回転台不使用）

図版 18

1．焼 塩 壺

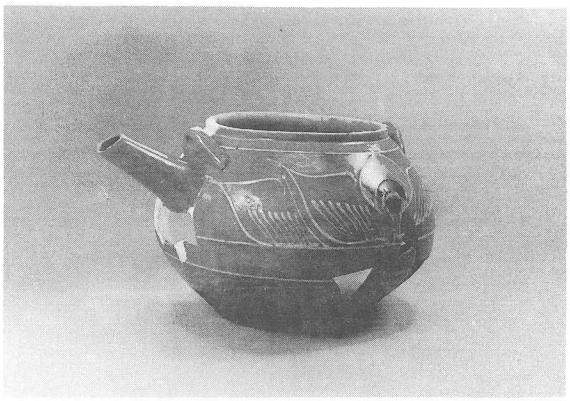


2．染付磁器①

3．染付磁器②

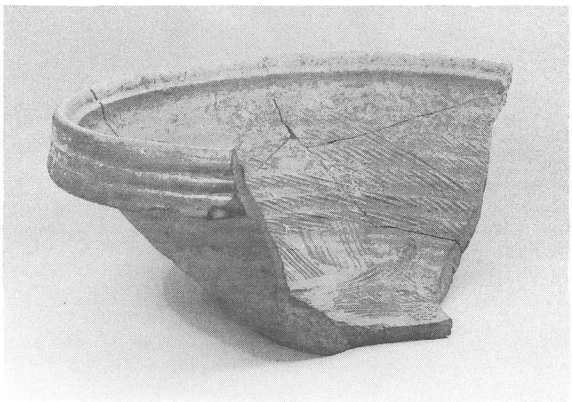
4．染付磁器③

5．瓦質土器（火鉢と急須）

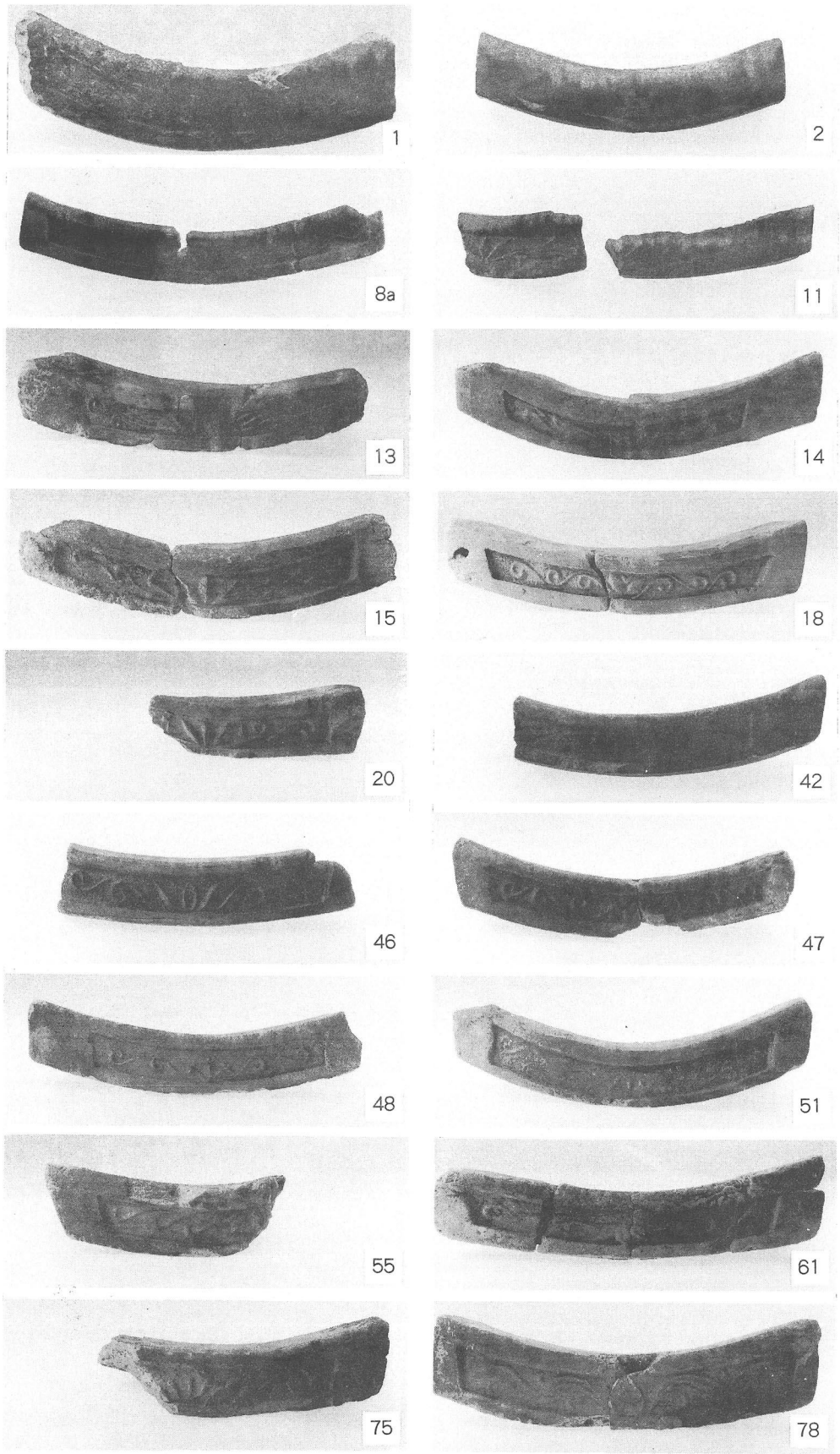


6．施釉陶器（土瓶）

7．備前焼擂鉢

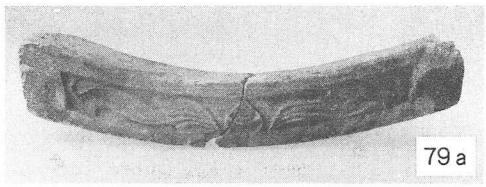


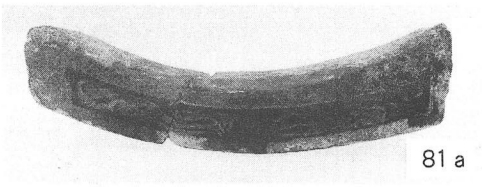
8．備前焼擂鉢

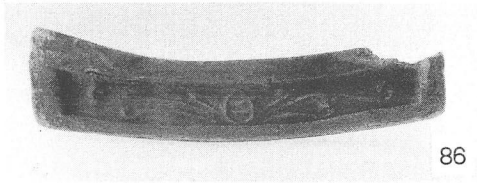


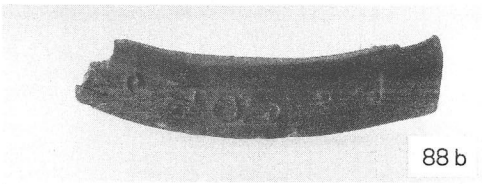
軒 平 瓦 I

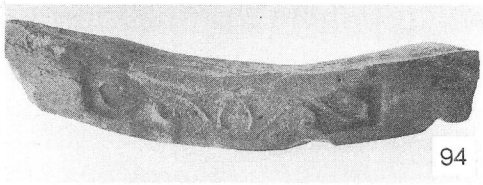
図版 20

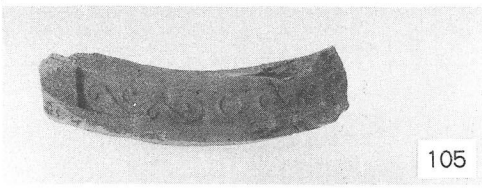

79 a

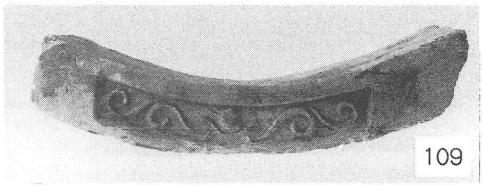

81 a

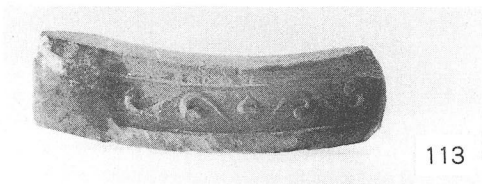

86

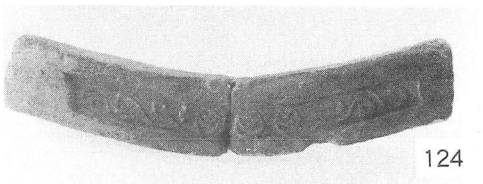

88 b

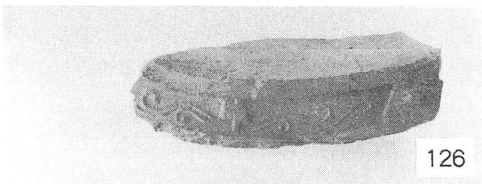

94

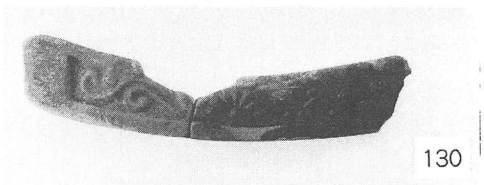

105

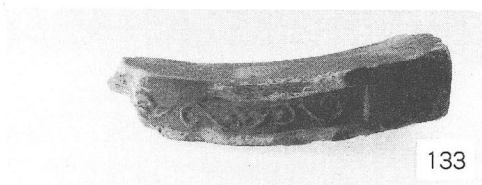

109

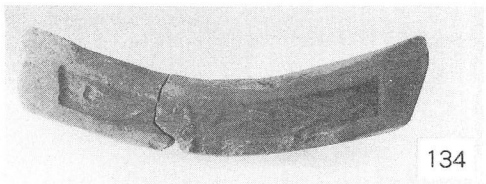

113

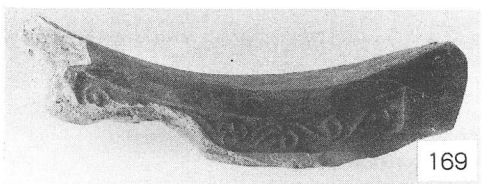

124


126

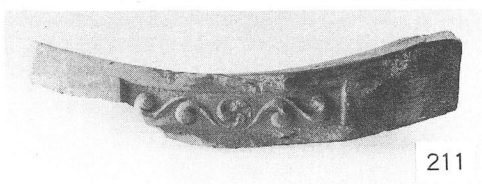

130

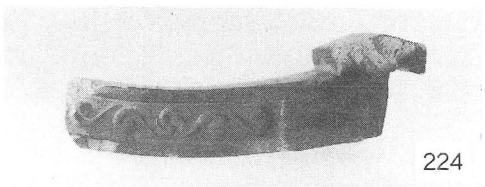

133

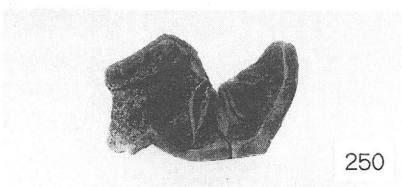

134


169

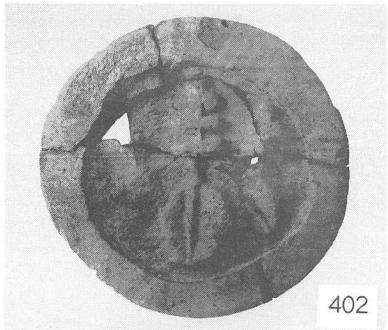
170

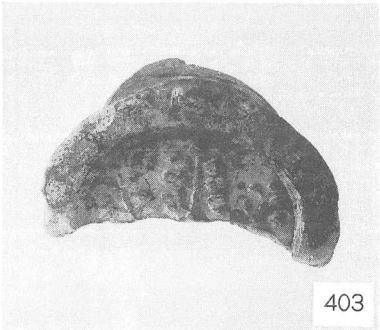

211


224


250

軒 平 瓦 Ⅱ


402


403

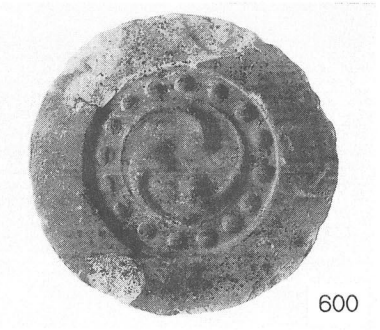
502

515

573

574

589


600

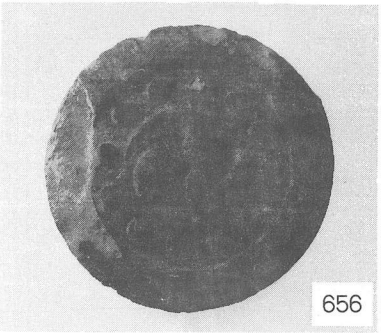
609

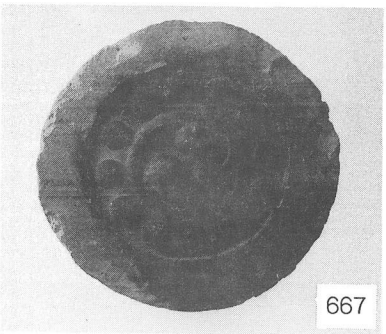
632

635

638

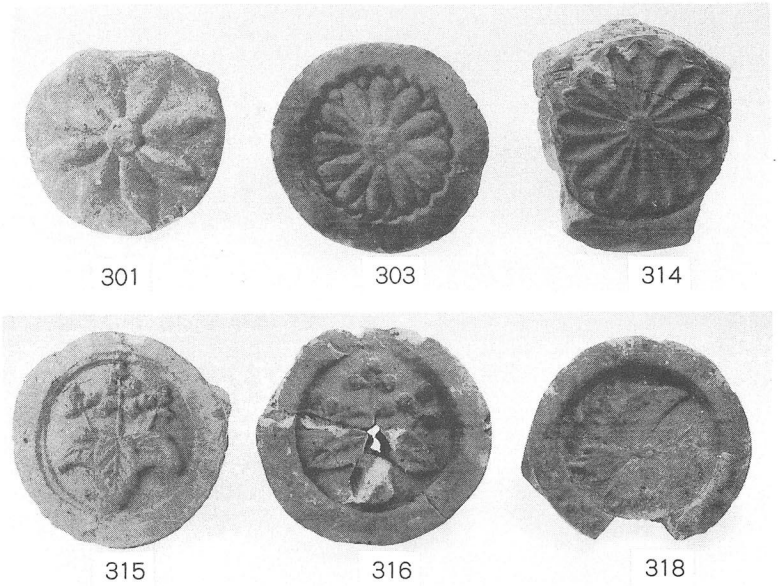
646


656

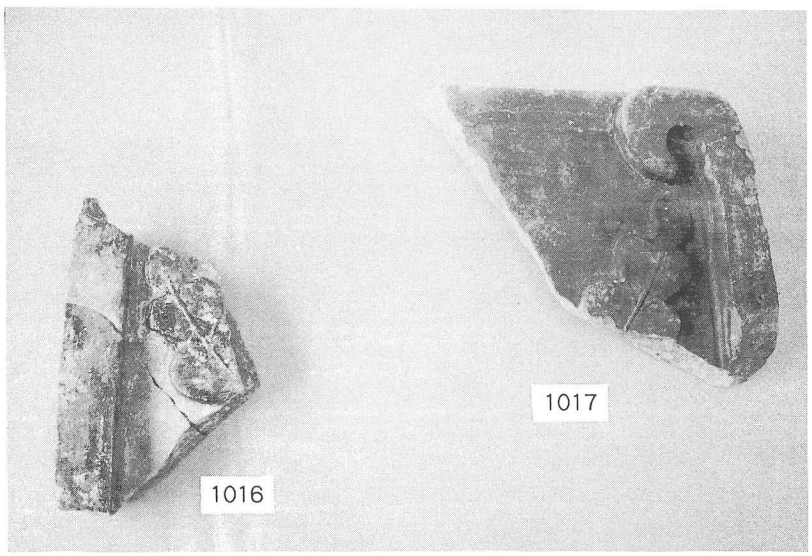

667

軒　丸　瓦

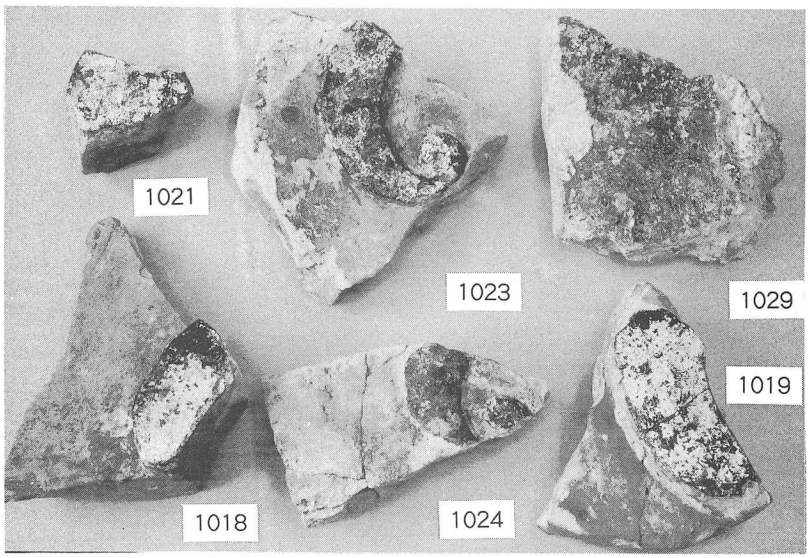
図版 22



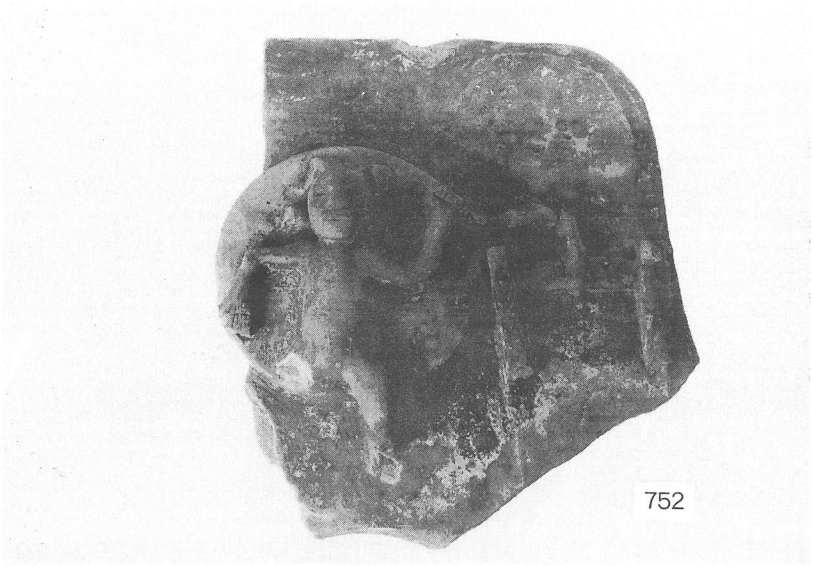
1．各種棟込瓦



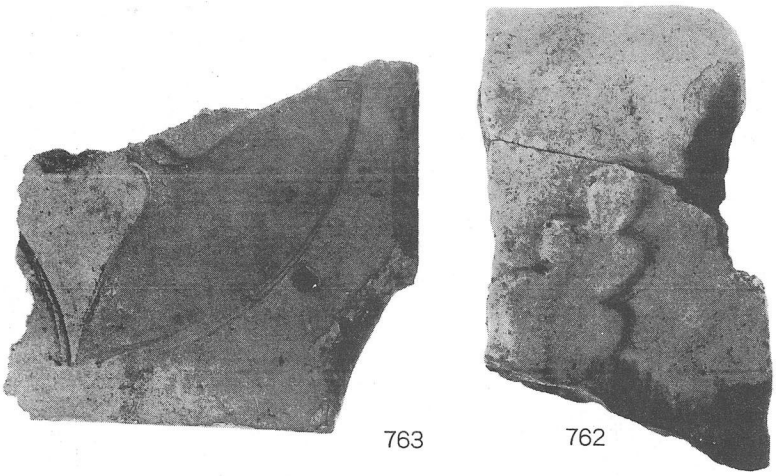
2．金箔おし桐文鬼瓦



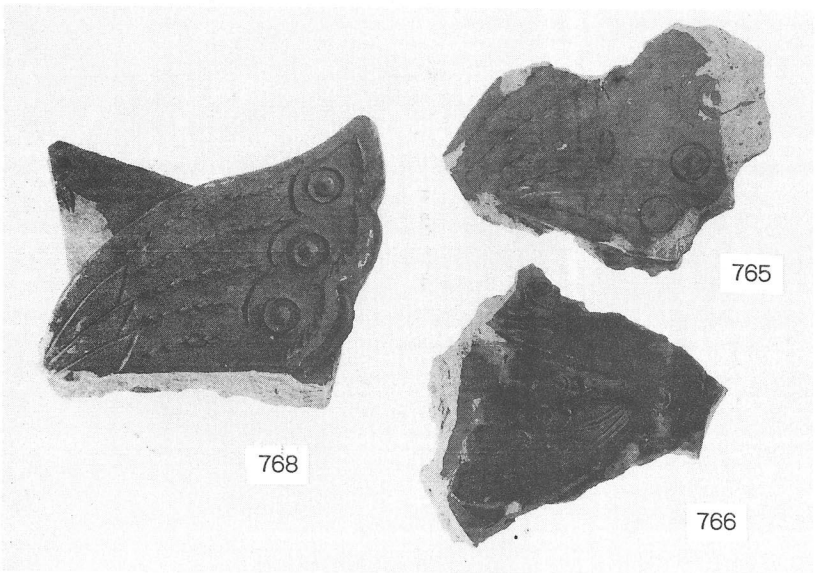
3．金箔おし各種鬼瓦



1．下層出土の人物文鬼瓦

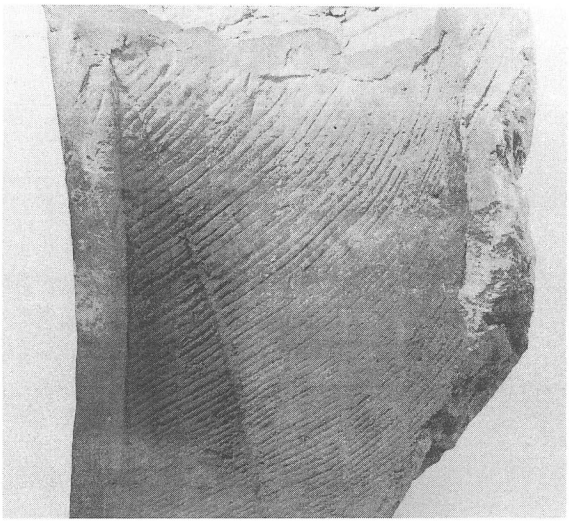


2．下層出土の
飾板・桐文鬼瓦

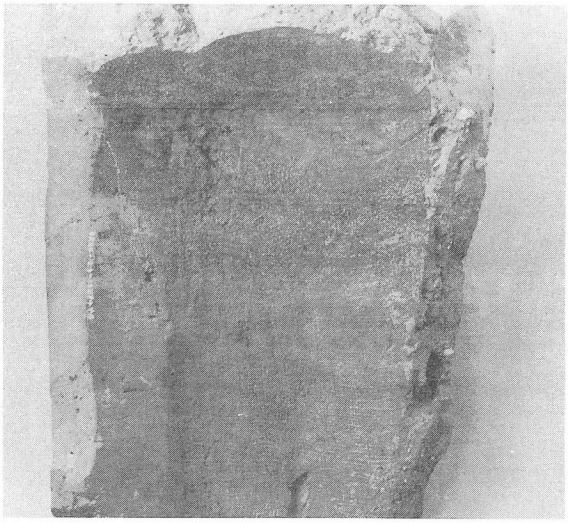


3．上層出土の
アゲハ蝶文鬼瓦

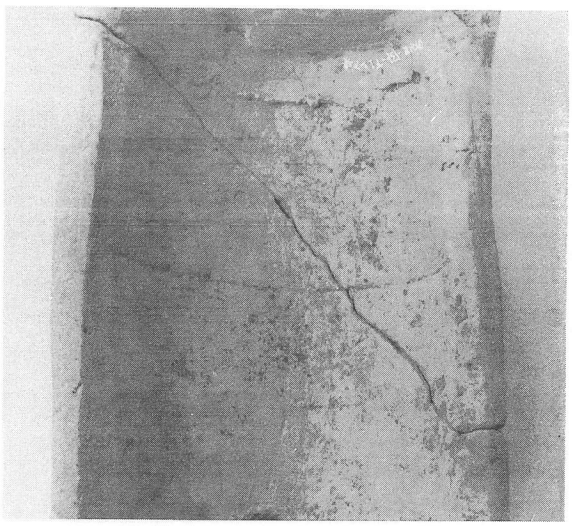
図版24



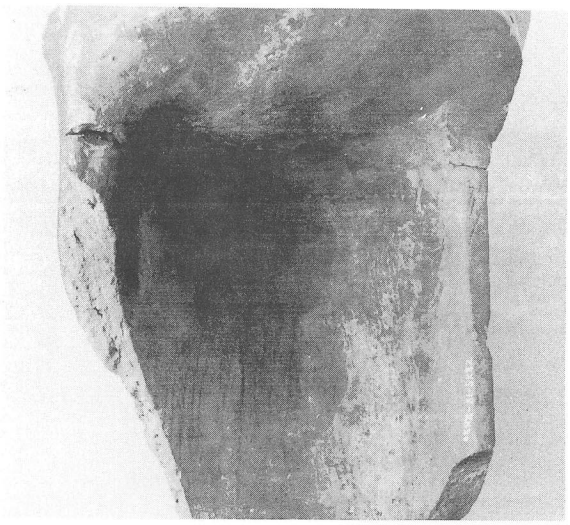
1．金箔おし軒丸瓦(1006)内面［顕著なコビキＡ痕］



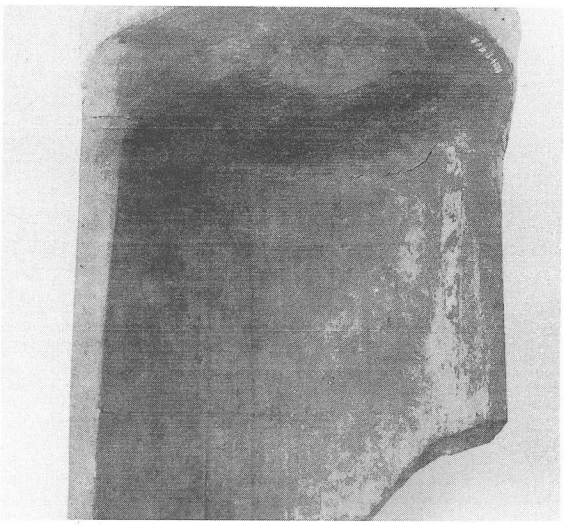
2．軒丸瓦（556）内面［コビキＡのち顕著な布目］



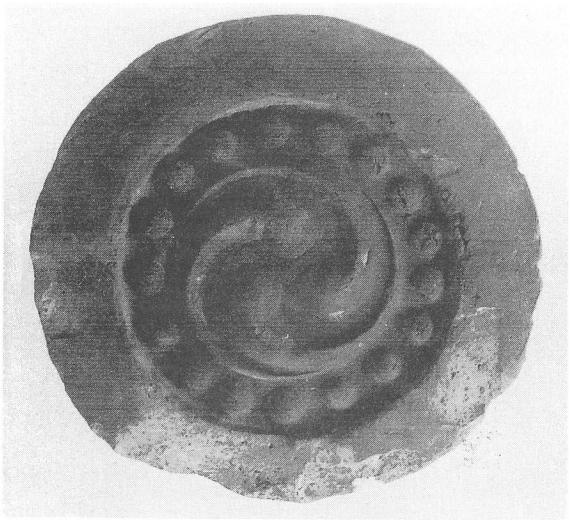
3．軒丸瓦（593）内面［コビキＢ］



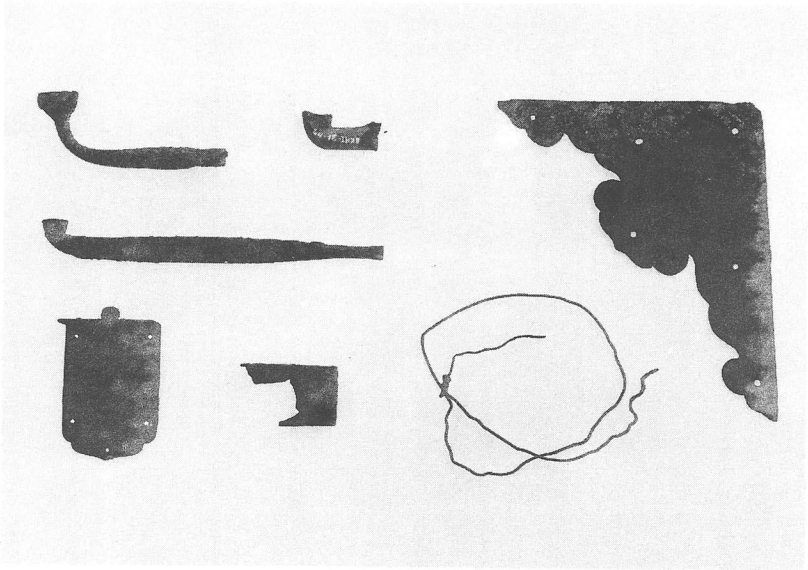
4．軒丸瓦（638）内面［ゴザ状の粗布目］



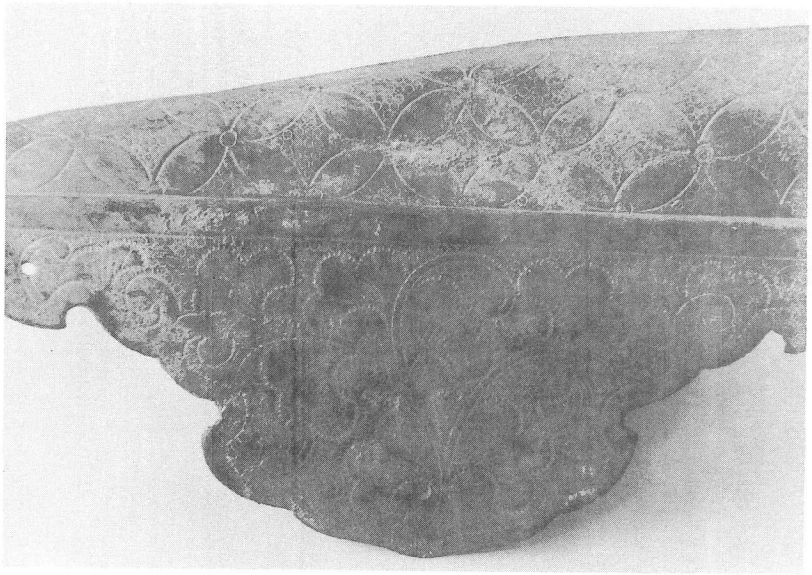
5．軒丸瓦（649）内面［顕著な細板状タタキ］



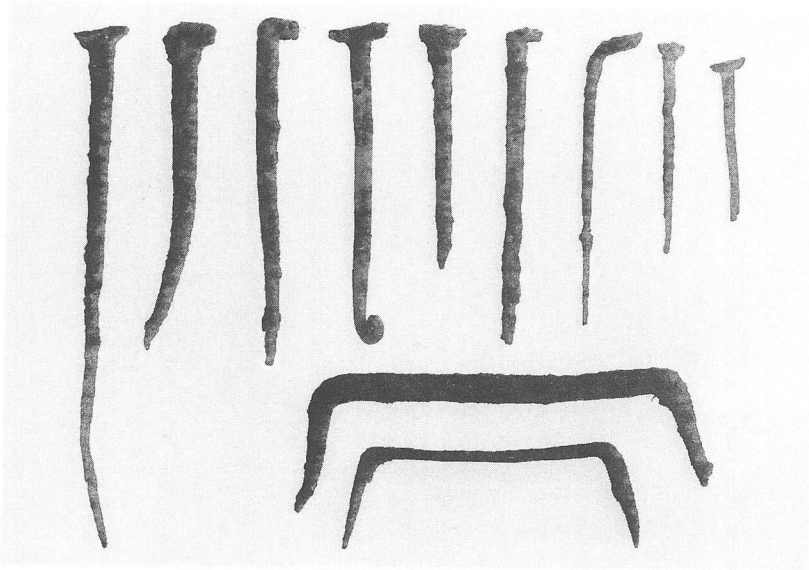
6．安住院本堂の軒丸瓦
［金箔おし大形鳥衾1013と同笵］



1．上層出土の金属製品

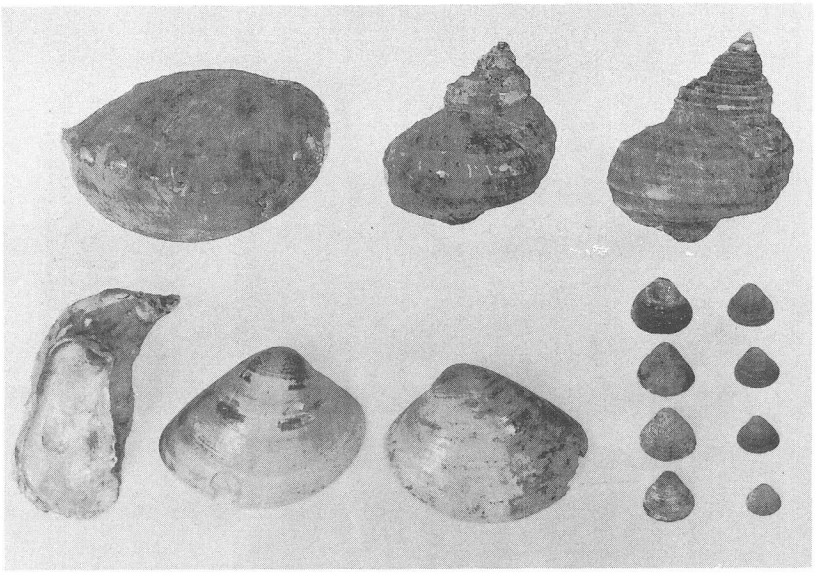


2．上層出土の飾金具（24）

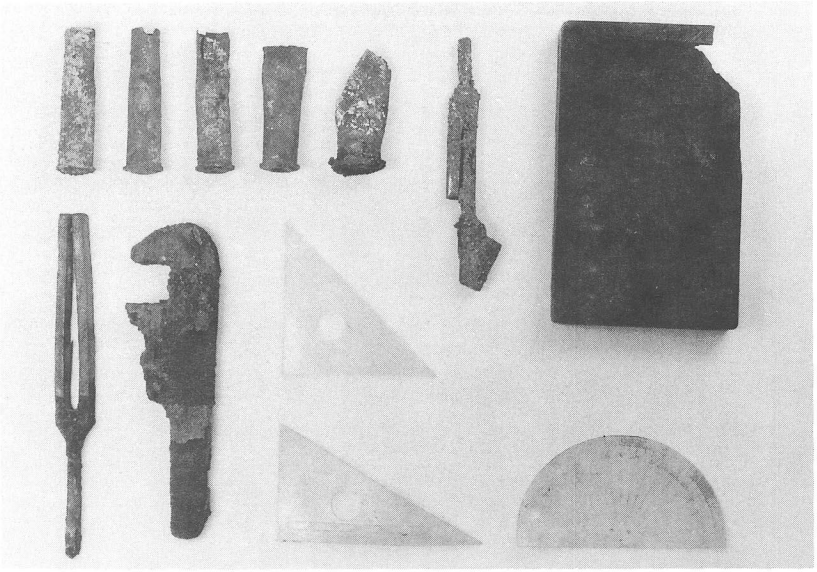


3．上層期の鉄釘類

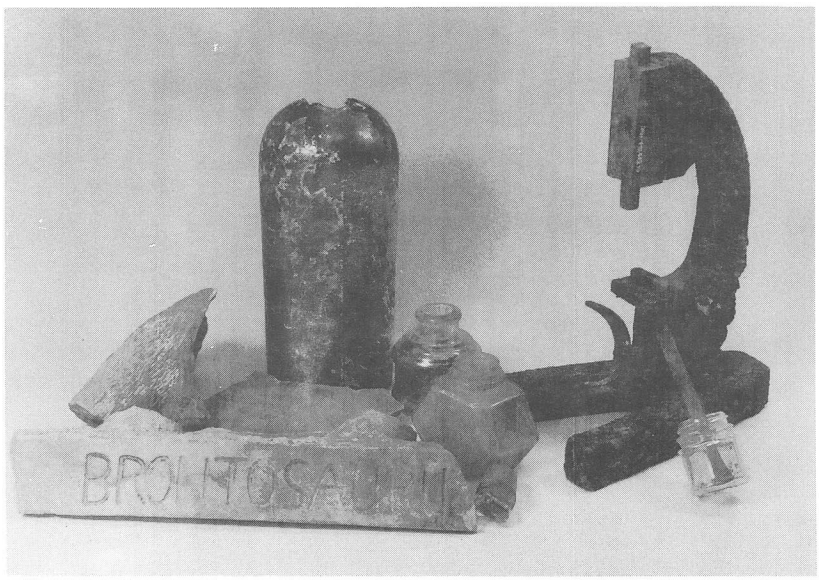
図版 26



1．上層SK140出土の貝殻



2．旧制中学の遺物Ⅰ



3．旧制中学の遺物Ⅱ

あ　と　が　き

岡山城は、瀬戸内中部における宇喜多氏以降の領国統治の拠点城郭としての巨大な歴史的構築物であり、現在の岡山市街地発展の礎であり、岡山市民はもとより内外の観光客や歴史家にも広く親しまれる存在でもあります。この岡山城についての歴史的な究明は古くから行われてきたところでありますが、明治維新後の廃城と跡地利用から、地下に埋もれた埋蔵文化財としての調査・研究はようやく緒についたばかりです。

今回の発掘調査では、本丸のなかでも中の段に限定された範囲ではありますが、築城直後の郭の変遷過程の究明、絵図と一致する表書院の遺構群の検出など、予想を遥かに越える内容で岡山城の実像をかいま見ることができました。それは中世から近世へ、また戦国時代から徳川政権の安定期へ、そして明治維新へという城を取り巻く歴史のうねりの中で、岡山城が歩んだ姿そのものです。

こうした歴史的事実を的確に踏まえた上で、我々はこの岡山城をかけがえのない文化財産として、確かな形で子孫に伝えていかなければなりません。今回の発掘調査の目的もここにあるわけで、本書にまとめました内容をもとに、今後は国指定史跡としての岡山城跡の望ましい整備に鋭意取り組んでいく所存であります。

本書は史跡整備に向けた1つのステップに過ぎませんが、宇喜多秀家の岡山城が完成したと伝えられる年から期せずして400年目の年に刊行することができました。本書が文化財の保護保存と郷土の歴史に対する理解と認識を深める一助になりますよう、念じてやみません。

最後に今回の発掘調査と報告書作成にご指導、ご尽力とご協力をいただいた、関係機関、各位にあらためてあつく御礼申し上げます。

平成9年3月31日

岡山市教育委員会

社会教育部長　居　森　次　雄

史跡保存整備事業

史跡岡山城跡本丸中の段発掘調査報告

1997年3月31日

発　　行　岡山市教育委員会
　　岡山市大供一丁目1番1号
製作・編集　岡山市教育委員会文化課
印　　刷　大和印刷株式会社